

災害・侵入者検知時にカメラを自動制御 各種センサーとの連動で監視業務を効率化

「安心・安全」に対する要請が高まるのに伴い、大規模化、複雑化する監視・防犯システム。監視員の作業負担は増大するばかりだ。この課題に対し、パナソニック システムソリューションズ ジャパン (PSSJ) は、各種センサーと監視カメラを連動させ自動制御する「IPセキュリティ統合制御システム」を提案。迅速かつ効率的な監視業務の実現に貢献している。

危機管理や防犯対策強化などの要請に伴い、監視システムの大規模化が進んでいる。特にこの傾向が顕著な大規模商業施設や公共施設などでは、防犯・防災など、用途ごとに監視カメラとモニターが増加。運用コストの高騰、設置スペースの不足といった新たな課題が顕在化してきている。

監視員の作業負担も増すばかりだ。カメラとモニターが増え続ける現状に、現場からは「目視による監視は最早限界」との声も挙がっている。

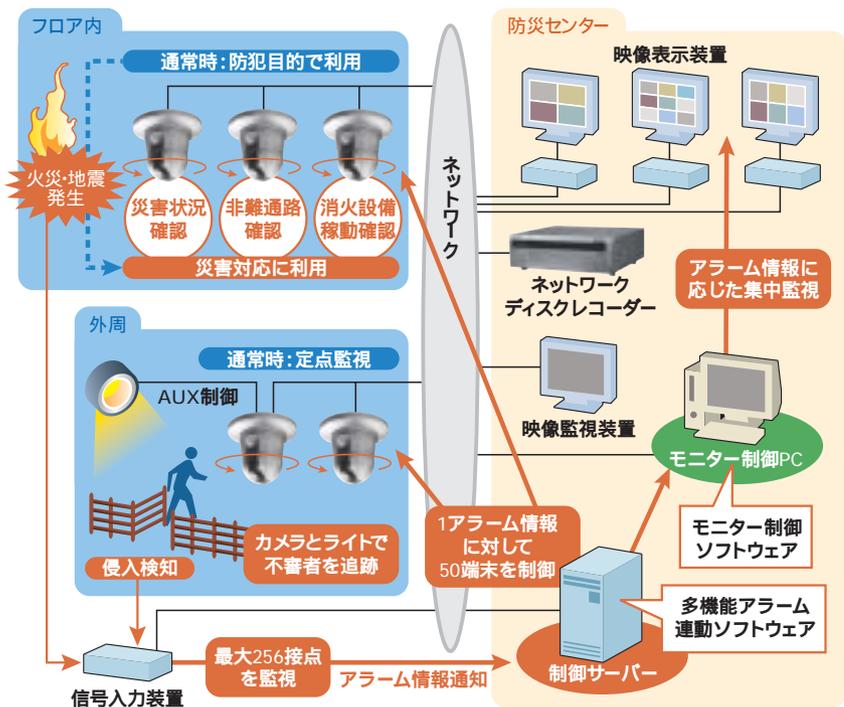
さらにはカメラ以外にも、侵入検知（赤外線センサー等）や入退管理、防災設備など、管理すべき設備は多岐にわたる。これらを効率的に運用することは難しくなっている。

監視システムを複数用途に利用 自動制御で業務負担も軽減

こうした課題を一気に解決する有効策がある。キーワードは「連動」と「自動制御」だ。センサーが発するアラーム情報に基づいて、異常発生箇所にカメラを向ける、モニター表示を切り替える、状況を録画する、といった動作を自動制御すれば、数多くのカメラ映像を監視員が常時監視する形態から、異常が発生した箇所を中心に監視する形へと業務を変革できる。監視員の負担軽減はもちろん、異常発生時の対応も迅速かつ確実になる。

また、従来は防犯用、防災用など利用目的ごとに分かれていた監視カメラとモニターの共用も可能になる。例えば、通常時は侵入者監視に用いるカメラを、火災・地震検知のアラームに応

システム構成図



じて災害対応へと切り替え、被害状況や消火設備の稼働状況、避難通路の確認などに用いることができる。

こうした連動と自動制御を可能にするのが、PSSJが提供する「IPセキュリティ統合制御システム」だ。従来はユーザーの要望に個別に対応してきた制御システムをパッケージ化し、より低コスト・短納期での導入を実現した。

最大256接点を常時監視し、1つのアラーム情報に対してカメラや照明など最大50端末が制御できる。侵入者検知の場面では、複数のカメラで侵入箇所を撮影し、侵入者の追尾、照明点灯を自動で行うといった運用も可能だ。

異常発生時の「モニター表示内容の切り替え」「録画レートの引き上げ」なども予め設定したシナリオ通り自動で行う。想定外の事態が発生しても、直感的なタッチパネル操作で瞬時に手動操作に切り替え、見たいカメラ映像を瞬時に呼び出せる。

接点でアラームを検知する仕組みであるため、一般的なビル設備で用いられている各種センサー、呼び出しボタンなどにも対応でき、連動範囲の広さも本システムの特徴だ。防犯・防災用に限らず、機器・設備の異常検知センサー等との連動で、監視カメラのさらなる用途拡大、効率運用が期待できる。

資料請求は
こちらへ

パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社
<http://panasonic.biz/solution/press/ip-sec/>